



INDEX

- ・今シーズンも高病原性鳥インフルエンザの発生リスクは高い 1-2
- ・令和5年11月始期鳥インフルエンザ経営再建保険加入状況について 3
- ・農林水産省、牛肉骨粉等の鶏・豚等用飼料への利用再開の検討を推進 4
- ・「魅力あふれる安全安心の国産鶏卵」冊子配布状況等のご紹介 5-6
- ・鶏卵公正取引協議会からのお知らせ
 令和5年度「公正マーク付きたまごプレゼントキャンペーン」について 7
- ・統計データ 8
- ・協会活動報告 9

今シーズンも高病原性鳥インフルエンザの発生リスクは高い — 昨シーズン（2022-2023）の疫学調査報告より

高病原性鳥インフルエンザ疫学調査チームによる疫学調査報告（令和5年7月24日）によると、近年、世界各地で発生が継続している状況や多様なウイルスの出現等を勘案すると、これから冬を迎える今シーズンの本病の発生リスクは依然として高いと警鐘を鳴らしています。

折しも、10月に入ってから、北海道美唄市と釧路市で回収された死亡野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N1亜型）が検出されました（以下リンク参照）。

その後、宮城県大崎市でのハシブトカラスなど感染疑い事例も出ており、**既に日本国内に鳥インフルエンザウイルスは侵入しています。**

■ 北海道美唄市で回収された死亡野鳥におけるH5亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの検出に伴う防疫対策の再徹底について

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/attach/pdf/r5_hpai_kokunai-5.pdf

長距離飛行をして大陸から日本に渡る渡り鳥のルートもあり、今シーズンにおいても渡り鳥の飛来とともにインフルエンザウイルスが日本各地に侵入することを前提とした対策が重要です。

会員の皆さまにおかれましては、既に防疫対策を取られているかと思いますが、渡り鳥の飛来が本格化する時期ですので、今一度、自社地域での防疫体制の徹底をお願いいたします。

以下に、疫学調査チームの「提言」を踏まえ、今シーズンにおいて生産者の皆さんがインフルエンザウイルス侵入対策を実施される際のポイントをまとめました。

気付いたときに即対策をとることが大切です。



高病原性鳥インフルエンザ 防疫対策徹底のポイント

今シーズンの高病原性鳥インフルエンザ流行に備え、防疫対策の発生予防・まん延防止対策に万全を期すよう、改めて再徹底をお願いします。

高病原性鳥インフルエンザ Highly Pathogenic Avian Influenza

防疫対策徹底のポイント

01 重点対策期間

渡り鳥の飛来が本格化する前の9月中には防疫体制を整備。
10月から翌年5月までは警戒を強化。特に11月から翌年1月までは重点対策期間。

02 発生予防対策

1 家きん飼養農場における発生予防の徹底

入出時対策

消毒・更衣前後における交差のない動線、明確な境界線の確保。

作業従事者のほか、外部事業者も対策を徹底



野生動物対策

農場内の整理・整頓、堆肥舎や鶏糞搬出口への覆いの設置。

一見隙間のなさそうな家きん舎でも入念に侵入口を点検



入気口対策

粉じん、羽毛等の取込み対策に野鳥避けの設置。フィルター設置も検討。

普段は目が届きにくい場所の対策も重要



2 飼養衛生管理基準の遵守状況の一斉点検

飼養衛生管理の基本的な管理項目を飼養衛生管理者が一斉点検、毎月都道府県で取りまとめ。

03 まん延防止対策

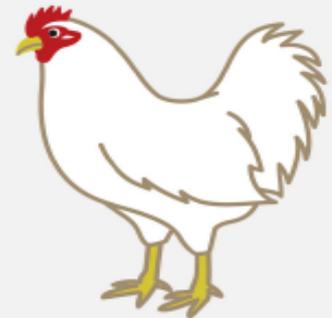
1 毎日の健康観察、異状の早期発見&早期通報

家きん所有者は毎日の健康観察を入念に行い、異状を認めた場合は速やかに管轄の家畜保健衛生所に届け出。

2 疾病発生時の円滑な防疫措置に必要な事前準備

疾病発生時の初動防疫及びまん延防止措置を円滑に講じられるよう、都道府県内の関係部局及び関係機関、市町村、関係団体等と連携。

ネズミや害虫の駆除、破損箇所の修繕、農場及び共同施設への出入り時の消毒などにも注意！



04 監視体制、環境対策等

- ・あひる等の水きん類を飼養している農場は、他に優先して定点モニタリングの対象。
- ・野鳥のサーベイランス検査を実施する体制を構築。
- ・農場周辺の水場、環境での野生動物対策。

MAFF
農林水産省

高病原性鳥インフルエンザは世界的な発生が続いています。
関係者が連携し万全の対策をお願いします。

2023年9月

(出典) 農林水産省ホームページ

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/attach/pdf/r5_hpai_kokunai-2.pdf



令和5年11月始期 鳥インフルエンザ経営再建保険加入状況について

補償の開始時期を11月に変更しました鳥インフルエンザ経営再建保険につきましては、9月下旬に募集を開始し、10月6日に申込みを締め切らせていただきました。

その加入状況は、次のとおりとなっています。

		1型	2型	3型
加入申込件数	570	511	55	4
(前回)	(566)	(507)	(56)	(3)
農場単位件数	1,155	1,060	90	5

注: 1型=鳥インフルエンザ補償のみ

2型=鳥インフルエンザ補償+自然災害補償

3型=鳥インフルエンザ補償+自然災害補償+熱波寒波補償

補償	項目	鶏舎種類	加入羽数(羽)	保険料(円)
インフルエンザ保険		成鶏舎	83,410,200	688,134,150
		育成鶏舎	22,968,900	94,861,557
		合計	106,379,100	782,995,707
		前回比(%)	95.1	208.6
自然災害補償		成鶏舎	2,917,900	8,893,656
		育成鶏舎	608,100	778,368
熱波寒波補償		成鶏舎	17,300	204,659
		育成鶏舎	0	0

多くの方々から、加入申込をいただき、ありがとうございました。

【問い合わせ先】

業務第一部 TEL: 03 (3297) 5515



農林水産省、牛肉骨粉等の鶏・豚等用飼料への利用再開の検討を推進

農林水産省は、20年ぶりとなる牛肉骨粉等の鶏・豚等用飼料への利用再開の検討を進めています。再開に当たっては、牛等を対象とする飼料の交差汚染等を防止するための基準を設定し、専門機関による製造事業場等への立入検査等の措置を導入することとしています。今後、農林水産省は、利用再開について内閣府食品安全委員会に諮る予定です。

1 BSEに係る飼料規制の見直しについて

製造工程の分離や牛等への使用禁止の表示等、リスク管理措置を講じたことにより、2013年以降、国際獣疫事務局（WOAH）による「無視できる BSE リスク」のステータスを10年以上維持し、我が国の BSE 発生リスクが低下していることから、牛肉骨粉等（SRM 及び死亡牛を含まない）の鶏・豚等用飼料への利用再開が検討されています。なお、これまでの飼料安全法に基づく立入検査において、牛等を対象とした飼料への牛肉骨粉等の混入や牛肉骨粉等の牛等への給与は確認されていません。

2 農林水産省が検討している利用再開に当たっての管理措置の方向

牛肉骨粉等の鶏・豚等用飼料への利用再開に当たっては、牛等を対象とする飼料の交差汚染等を防止するため、牛等を対象とする飼料の製造工程からの完全分離等の基準を設定した上で、牛肉骨粉等を使用する製造事業者に対して適合状況を確認する大臣確認制度の導入及び牛等の畜産農家への立入検査を実施する方針です。

【参考】これまでの経緯

2001年9月のBSE初確認後、飼料安全法に基づき、牛及びめん山羊に由来する肉骨粉等を飼料に利用することを禁止しました。2015年4月以降は、牛及びめん山羊に由来する肉骨粉等の養殖水産動物を対象とした飼料への利用を順次再開してきました。

一方、牛肉骨粉等の馬、豚、鶏又はうずらを対象とした飼料への利用は、現在、飼料安全法に基づき禁止しています。



「魅力あふれる安全安心の国産鶏卵」冊子配布状況等のご紹介

1. 冊子作成の経緯

消費者に対しタマゴに関するポジティブな情報を提供する目的で、令和3年4月より冊子作成に取り掛かり、令和4年3月には暫定版を当協会HPに掲載開始しました。

冊子の記事内容に関係するAWに関する国の指針が令和5年7月に公表されましたので、本冊子も完成版を令和5年9月に発刊いたしました。

また、冊子の要点をお分かりいただくため、一般消費者も手に取りやすい「要約版」を作成し、令和5年5月に発行しています。

各方面への配布状況についてご紹介いたします。

2. 冊子等配布について

《冊子》

<p>【掲載内容】</p> <p>第1章 日本人のタマゴ好きは世界で二番目！</p> <p>第2章 ニワトリってどんなトリ</p> <p>第3章 タマゴは大きな細胞 －その生命のカプセルの不思議－</p> <p>編集部特別インタビュー たいめいけんのオムライス</p> <p>第4章 健康な生活に必要な魅力あふれるタマゴの機能性栄養成分について ライフステージとタマゴの関係</p> <p>第5章 知って得するタマゴの表示と保存方法</p> <p>第6章 鶏卵の生産から出荷まで －新鮮で安全安心なタマゴを届けるために－</p> <p>第7章 タマゴの安全性について</p> <p>第8章 西欧から生まれたアニマルウェルフェアについて むすびにかえて ～日本の養鶏産業と国産鶏卵に今後期待すること～</p>	
---	--

(1) 学校等

全国小学校（約2万校弱）の家庭科担当教諭、家政学関係大学（34校）、料理専門学校（2百校弱）へ、各1部配布しました。すでに、料理専門学校より「教材として活用したい」との希望が寄せられており、学校よりこのような要望があった場合には、無償にて提供することとしています。

(2) 協会会員

各会員宛て1部送付しております。

なお、追加で別途冊子を希望される方へ、実費相当額にて有償（100円/冊：税込・送料含む）での提供を案内し、現段階で送付冊数は2,500部を上回る見通しとなっております。



(3) 消費者等（11月開始予定）

協会ホームページにおいて告知し、希望者へ1部配布するとともにたまごギフト券（300円／人）をプレゼントする取り組みを予定しております（上限5千人）。

(4) 報道機関

記事・番組等において本内容を活用いただく目的で、キー局・全国紙・業界専門紙17社へ冊子を送付しました。

《要約版》

<p>【掲載内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 良質なタンパク質こそ免疫力のパワーの源・ 衛生管理の徹底で安心して「生食」できる日本のタマゴ・ タマゴを食べて脳の健康寿命を延ばそう。・ 子育て中の食生活に欠かせない「たまご」・ コレステロール悪玉説は誤った認識だった！・ 「めだま焼き丼」レシピ2種	
--	---

(1) 日本卵業協会より「いいたまごの日」案内を全国の高等学校へ送付する際、本要約版も同封し、約1,300部配布しました。

(2) 学校等

全国小学校の家庭科担当教諭、家政学関係大学、料理専門学校へ、冊子を送付する際に各1部同封しました。

3. 協会HPへのデータ掲載について

◎ 日本養鶏協会サイト（「養鶏協会」で検索）

<http://www.jpa.or.jp/>

◎ 魅力あふれる安全安心の国産鶏卵（協会サイトホーム下部にバナー）

<http://www.jpa.or.jp/news/gyosei/20220316/index.html>

【問い合わせ先】

業務第三部 TEL：03（3297）5515



鶏卵公正取引協議会からのお知らせ

令和5年度「公正マーク付きたまごプレゼントキャンペーン」について



鶏卵公正取引協議会では、公正マークの普及や鶏卵の表示に関する消費者の理解促進を図るため、毎年2回「公正マーク付きたまごプレゼントキャンペーン」を実施しています。

このキャンペーンは、クイズに正解すると公正取引協議会会員企業が販売している公正マーク付きたまごを毎回100名の消費者に30個プレゼントするものです。

令和5年度については

第1回 令和5年 11月20日～12月19日

第2回 令和6年 1月22日～2月20日

で実施する予定にしています。

クイズの問題は、昨年度同様に「賞味期限とはなんですか？」などの表示と鶏卵の基礎知識を関連させた問題を出題し、消費者の理解度を確認する予定です。

日本養鶏協会のホームページからもアクセスできますので、お時間のある際にご覧いただければ幸いです。

なお、2回のキャンペーンの結果につきましては3月号の日鶏協ニュースでお知らせする予定ですのでご期待ください

【お問い合わせ】

鶏卵公正取引協議会 事務局 (https://www.jpa.or.jp/keiran_root/)

E-mail ` ` teritama@jpa.or.jp Tel ` ` 03-3297-5516 Fax ` ` 03-3297-5519



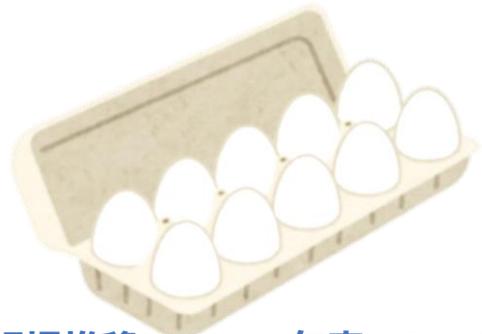
統計データ



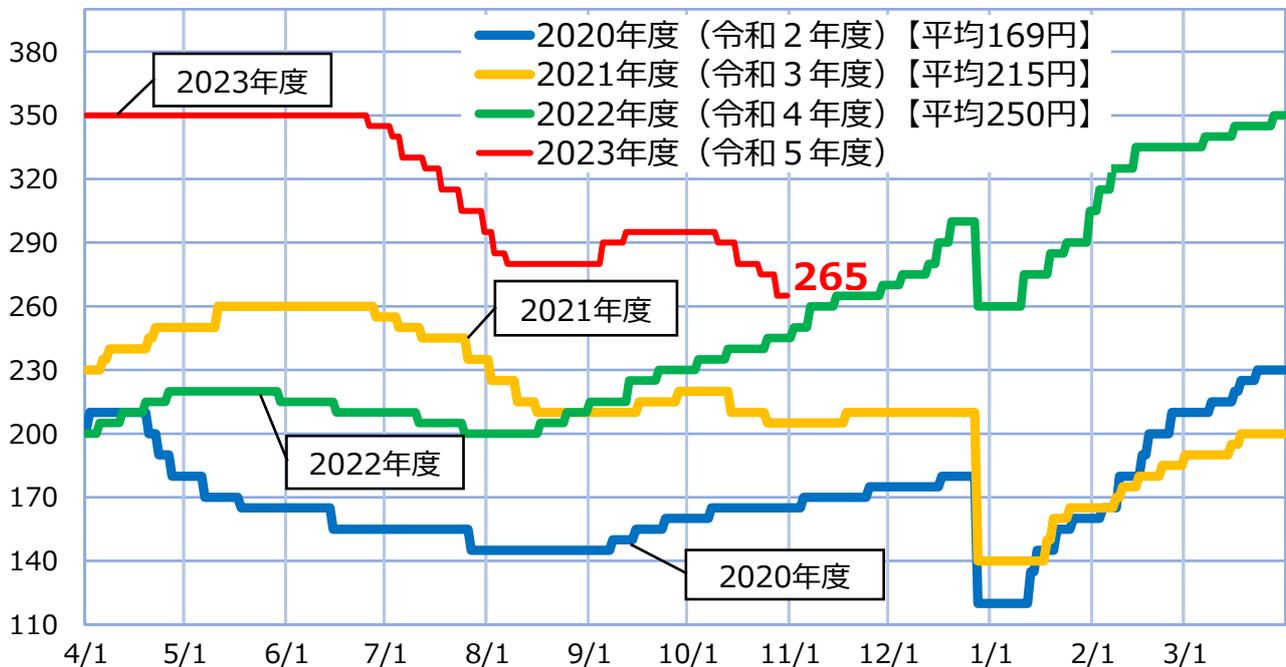
鶏卵相場動向 — 過去10年間の10月相場 東京全農Mサイズ 円/kg

	平均値	高値	安値
平成26年	240	258	234
平成27年	250	268	244
平成28年	211	233	194
平成29年	211	243	191
平成30年	194	213	184
令和元年	204	228	194
令和2年	164	185	154
令和3年	213	240	199
令和4年	239	267	224
令和5年	283	319	259
平均値	221	245	208

令和5年10月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）の高値319円は、過去10年の平均値245円を74円上回り、安値259円は、過去10年の平均値208円を51円上回っています。



鶏卵相場推移 2020年度～2023年度 東京全農Mサイズ 円/kg



鶏卵相場は6月末から8月迄下降が続き、9月に入り上昇に転じたが、10月末時点では、月初から30円高安の265円となりました。



鶏卵関係主要計数 —— 令和5年8月までの年間の主要計数推移

注：雛餌付羽数は全国推定値

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
	数量(千羽)	前年比	成 鶏 用		一人当たり		東京全農M	
			数量(千ト)	前年比	数量(g)	前年比	前年	本年
4年 9月	7,826	87.7%	461	99.0%	882	97.9%	213	223
10月	8,406	86.7%	470	101.4%	955	101.4%	213	239
11月	8,767	96.8%	481	99.4%	911	98.6%	207	262
12月	9,076	94.8%	511	96.9%	943	99.6%	210	284
5年 1月	8,475	99.3%	447	96.7%	898	96.8%	151	280
2月	8,289	95.6%	424	93.7%	849	94.8%	175	327
3月	9,470	102.4%	475	92.3%	828	86.3%	195	343
4月	8,715	98.6%	436	89.6%	846	92.2%	211	350
5月	9,349	100.5%	462	97.0%	833	89.0%	219	350
6月	9,641	114.1%	443	90.9%	817	94.9%	213	349
7月	9,325	103.4%	428	96.9%	813	88.8%	205	320
8月	8,694	102.5%	434	93.0%	859	97.9%	204	282
1年間合計 平均(%)	106,033	98.5%	5,472	95.6%	10,434	94.8%	201(平均)	301(平均)

- ・雛餌付羽数は、8,694 千羽（前年比 102.5%）と前年比 2.5%増となりました。
- ・配合飼料出荷量は、434 千トン（前年比 93.0%）と前年比 7.0 減となりました。
- ・鶏卵の家計消費量は、859 グラム（前年比 97.9%）と前年比 2.1%減となりました。
- ・鶏卵相場は、前年平均の 78 円高を示しました。

協会活動報告



鶏卵生産者経営安定対策事業 (<http://www.jpa.or.jp/stability/>)

① 価格差補填事業の事業参加者との
契約数量（単位：t）

令和 2年度	1,957,918
令和 3年度	1,840,695
令和 4年度	1,794,699
令和 5年度	1,731,712

② 標準取引価格

令和5年10月 287.36 円/kg

③ 鶏卵価格差補填事業

補填基準価格 209 円/kg

安定基準価格 190 円/kg

日鶏協ニュース 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内(5階)

Tel：03-3297-5515 Fax：03-3297-5519 発行日：2023年11月8日

編集・発行責任者：浅木 仁志(info@jpa.or.jp)